

普及活動情勢報告（平成 29 年 9 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

直販野菜栽培研修会



勉強会の様子

8 月 25 日にさくら市野菜栽培研究会を設立し、第 1 回の勉強会を普及所で開催しました。

構成員は 7 人で、普及所は直販野菜の技術確立とリーダーの育成を目的に勉強会や実証展示等を行うことにしています。

今回は生産計画の立て方や安全・安心な野菜づくりに向けた技術研修を行いました。栽培が困難な夏期と冬期の栽培について経験を踏まえた意見交換ができました。

勉強会は年度内に 6 回開くことが決まりましたので、メンバーのほ場や聞き取り調査などを行い、課題の解決方法などを提案していこうと考えています。

拠点の経営改善に向けて



拠点毎にグループワーク

8 月 25 日に大豊町山村農業実践センターで、「複合経営拠点事業戦略策定支援ブロック説明会」が開催されました。

「(株)れいほく未来」「(株)大豊ゆとりファーム」の 2 拠点に係関係機関が分かれ、普及所は「(株)大豊ゆとりファーム」のグループに入り、グループワークを行いました。「NPO 法人こうち企業支援センター」の経営コンサルタントを中心に事業戦略を作成するため、現状の課題を整理しました。

経営コンサルタントから様々な提案があり、園芸部門の技術・経営力強化の必要性が再認識されました。

普及所では、経営改善に向け毎月開催している定例会で栽培計画を検討しており、引き続きこの取組を強化していきます。

高冷地の現地研修で親睦を深める！～嶺北地区農村女性リーダー地区交流会～



荷造りされたユリを見学

8 月 25 日、農村女性リーダー 11 人が参加して大川村で地区交流会を行いました。普及所が日程調整等を行い、大川村の農村女性リーダー 2 人が経営するユリやカラーピーマンのハウスを見学しました。

ユリでは、「働いている若い人が多いねえ」「芽を出して植えているのは初めて見る」など参加者は目を見張り、栽培や荷造りの話を熱心に聞きました。

カラーピーマンでは、生育についての意見交換、参加者の近況報告などを行い、親睦を深めることができました。

普及所は、農村女性リーダーの相互研さんや交流の機会を設け、資質向上を支援していきます。

笑顔の絶えない集落を目指し頑張っています
土佐町「松木野営農組合」活動報告会



実証ほについて検討中

8月26日に土佐町の「松木野営農組合」の活動報告会が松木野集会所で開催され、組合員5人、土佐町、JA土佐れいほく、普及所が参加して活動状況を共有し、今年度の活動方針等について話し合いました。同組合は平成28年5月に「結い作業の継続と笑顔の絶えない集落づくり」を目指して設立された集落営農組織で、作業受託や新品目の試作・加工など様々な活動を行っています。

普及所は、新品目としてサツマイモの実証ほを設置し、収益性の試算と協業栽培による経営改善に取り組んでおり、引き続き町、JAと連携して「松木野営農組合」の組織活動の活性化を支援します。

女性農業者などが園芸作物の生育診断を学びました ～はちきん農業大学～



トマトの生育診断技術を勉強中の受講生

8月29日、2回目の女性農業者向け「はちきん農業大学」と新規就農者や研修生などを対象とした「農業基礎講座」を併せて開催し、8人（うち女性農業者3人）が受講しました。

普及指導員2人が、土佐町の米ナスとトマトの雨よけハウスで、生育診断のチェックリストを示し、作物の栄養状態の見方や施肥の判断ポイントなどについて説明しました。また、現地で硝酸イオンメータを使った汁液測定による栄養診断も行い、追肥の時期や量を判断する手法を実演しました。

参加者からは「資料が分かりやすく、丁寧に説明してもらい良かった」と好評でした。

普及所は今後も、受講生のスキルアップにつながる講座の企画や女性農業者のチャレンジプランの実現に向け支援していきます。

ユズ再生に向けて ～栽培講習会を開催～



講習会の様子

8月30日に大豊町怒田地区で、参加者22人を対象にユズの栽培講習会を開催しました。

怒田地区は管内でユズの生産量が最も多い地区ですが、酢玉生産が主体で、所得の確保が困難なことなどから、後継者が育っていません。

そこで、所得向上が期待できる青果生産に誘導し、産地の再生を図ることを目的としました。

隔年結果対策や各種支援策を紹介したところ、優良系統への更新など青果生産に関心が高いことが分かりました。今後普及所は、産地再生のモデル地区として重点的に支援していきます。

ユリ生産技術向上に向け、産地交流会を実施



栽培状況について意見交換

9月1日、管内の花き生産組織「土佐れいほく Confidence Flower (3戸)」は、JA 土佐あき花き部会と本山町、土佐町、大川村のほ場で交流会を行い、農家11人が参加しました。

産地のレベルアップにつなげるため、10年程前から交流会を実施しており、主力品目であるオリエンタル系ユリの栽培技術等を中心に情報交換を行っています。

普及所は栽培技術について助言しました。

農家からは「良いことも悪いことも情報交換できる仲となっている。これからも交流を続けていきたい」等の声がありました。

普及所では、今後も組織活動や各農家の生産安定に向けて支援します。

収穫適期はいつかな？～吉延営農組合「吟の夢」現地検討会～



ほ場で収穫適期を確認中

9月1日に、本山町吉延で今年初めての取組となる特別栽培米の「吟の夢」現地検討会が開催され、吉延営農組合の5人が参加しました。

普及所は収穫までの水管理や収穫後の乾燥作業などの注意点を説明し、全戸のほ場を回って収穫適期を指導しました。

生産者からは「籾の状態で見るともう少し収穫時期を遅らせた方が良いのではないかな?」「乾燥方法をどうするのか?」などの意見や質問が出され、活発な意見交換の場になりました。

今後も普及所では生産者と協力しながら酒米の更なる高品質化を目指して支援します。

収量増を目指して～ダクトファン実証～



ダクトファンの風速調査

JA 土佐れいほく園芸部では、ハウス内の炭酸ガス濃度を外気並みに確保するため、ダクトファンの利用を検討しています。

9月8、13日には、土佐町の米ナスほ場でダクトから出る外気の風速を測定しました。その結果、風速はダクト付近では約6m/sで、樹間内ではそれより低く、150cmの高さでは天窓や循環扇の影響を受けることがわかりました。実証農家からは、「ハウス内の風の強さがわかり参考になった」という声がありました。

普及所では、調査を通してダクトファンの有効な活用を検討していきます。

栽培後期の収量アップを目指して～「シシトウ部会」現地検討会を開催～



現地検討会の様子

9月21日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、大豊町で現地検討会を開催し、13人の生産者が参加しました。

普及所から、気象の推移、今後のかん水・追肥管理や、病虫害対策、天敵放飼実証試験の進捗状況について報告しました。

生産者からは、「気温が低くなり、収穫後期に向けて、かん水・追肥量の目安が解った」との声が聞かれ、気象、生育ステージに応じた栽培管理の重要性が理解されました。

今後も普及所は、部会の目標収量3t/10aが達成できるよう、現地巡回等を通して、栽培後期の技術指導を行っていきます。

第2回嶺北地域実行委員会を開催！

～全国農業担い手サミットinこうち開催に向けて～



委員会で熱心に検討

9月22日、今年度2回目の嶺北地域実行委員会を普及所で開催しました。農家代表をはじめ、JAや町村関係機関の委員など18人が参加しました。

会では普及所から、情報交換会への参加者や参加料金の徴収、予算の支出計画、農産加工品の展示などについて説明後、協議しました。今回が開催前の最後の委員会になるので、特に関係機関や委員の役割分担について情報を共有しました。

委員からは、「会には、きちんとした服装で参加するよう事前にお知らせした方が良くのではないか」との意見が出され、事務局と委員から周知することになりました。

普及所は、地域交流会が円滑に開催できるよう、委員と一丸となって取り組みます。